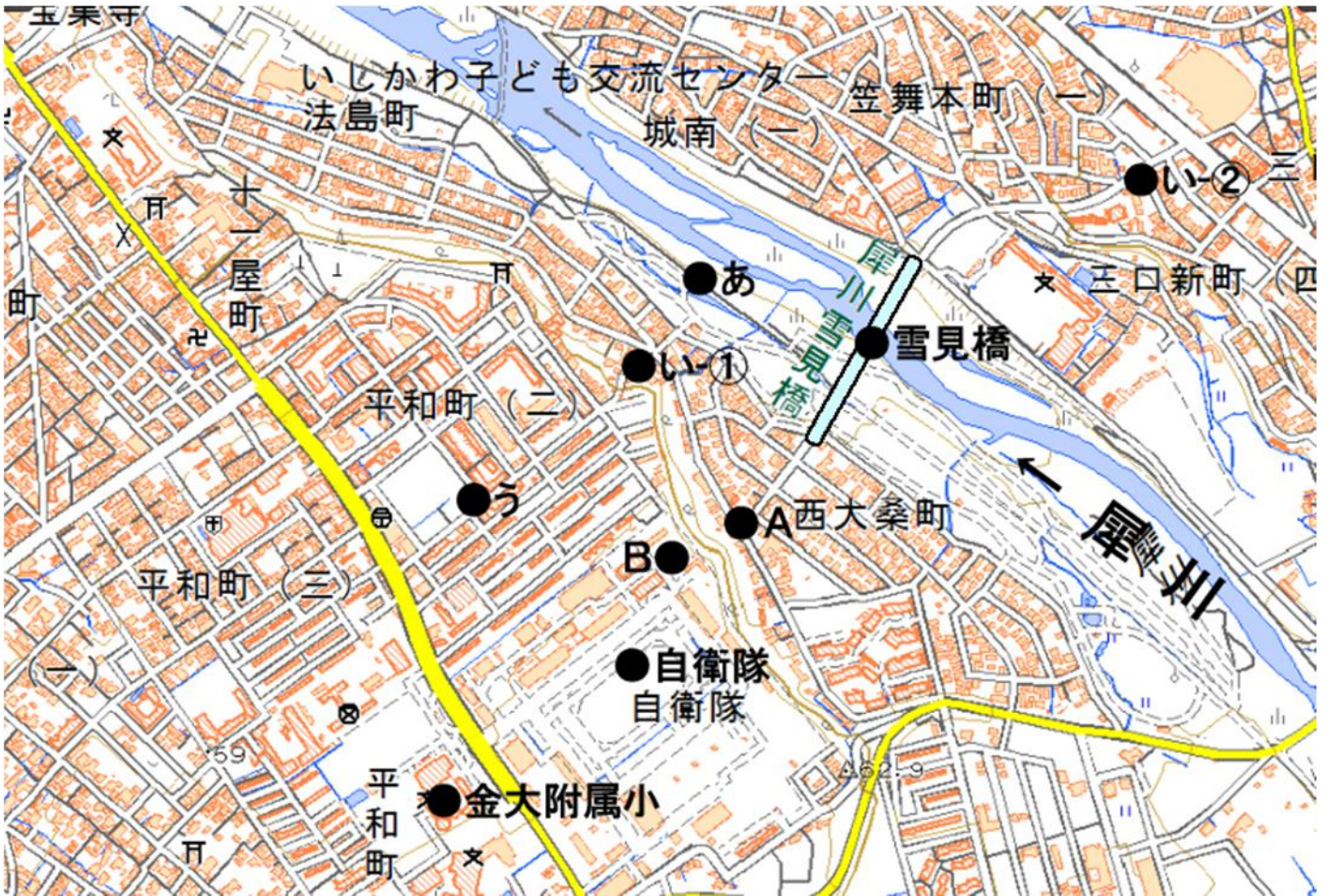


「金沢の地形(4)」～犀川雪見橋付近(1)～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

金沢平野には何本もの川が流れているが、金沢の目だった地形を形成したのは、浅野川と犀川である。地元では、浅野川を「女川」、犀川を「男川」と呼ぶという。対をなして、金沢の象徴的な存在・・・というわけだろう。どちらの川も、複数の段丘面(台地)と、沖積地(比較的新しい河川堆積地)を形成し、それが金沢市街南東部の地形の特徴となっている。

段丘面と段丘面の境、或いは、段丘面と沖積地の境の崖を「段丘崖(だんきゅうがい)」と呼ぶ。大岡昇平は、「武蔵野夫人」の中で、段丘崖そのものを「段丘」と記したが、これは誤りである。段丘崖の高さを「比高」といい、それが大きいほど、肉眼的(景観的)に目立った段丘崖と言える。地形図をよく見ると、犀川の段丘崖では、「雪見橋」付近が、目立った比高を持っているように見える。「雪見橋」は、寺町段丘の平和町と、笠舞段丘の笠舞本町を結ぶ、重要な橋梁である。通勤や通学で、毎日通過している方も多いはずだ。



「雪見橋付近の地形図」 作図: C. Tanaka

普通の地形図を見ても、雪見橋の南西側に、顕著な段丘崖の存在がわかる。都市部としては密な等高線が3本見えるが、太い線が標高50m線である。数値地図で計測すると、図のA地点(犀川沖積地)の標高は36.2m、B地点(寺町段丘)は60.8mである。比高は24.6mで、この数値から推測すると、相当に立派な段丘崖である。自衛隊の宿営は高台に位置し、景色がいいだろう。図の「あ」は沖積地(犀川沖積地)、「い①」はごく狭い下位段丘面(仮称・平和町段丘)、「い②」も下位段丘面(笠舞段丘)、「う」は中位段丘面(寺町段丘)を意味する。

しかし、この地形図だけでは、地形を実感するのは相当に困難である。こういう場合、現地に行くのが一番だが、「色別標高図」や「ストリート・ビュー」といった武器がある。東京から「観察」してみよう。(つづく)